

○計画期間：平成31年4月～令和6年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点（令和3年3月31日時点）の中心市街地の概況

認定基本計画に基づき、平成31年4月から、『誰もが輝き、「真の豊かさ、あずましさ」を実感できる街 —黒石ならではの魅力を磨くまちづくり—』をコンセプトに、「新たな拠点の創出により価値を高めるまちづくり」、「こみせとともに人と人が共鳴するまちづくり」、「誰もが安心して集い、憩うあずましの空間のあるまちづくり」の3つの基本方針を掲げ、各種事業に取り組んでいる。

計画2年目の令和2年度は、新たな拠点施設整備として、中心市街地の旧大型商業施設（旧大黒デパート）跡地の利活用を図るための「市民サービス施設整備事業」において旧大型商業施設の解体工事に着手（令和3年度末完了予定）したほか、「市立図書館整備事業」の設計業務が完了し、建築工事に着手（令和3年度末完了予定）した。また、民間事業となる「中心市街地複合宿泊施設整備事業」は令和2年6月から本格オープンし、中心市街地への来街者の宿泊機能を補完している。

既存事業として、文化・観光資源である「こみせ通り」を中心とした一体的な景観向上を図るための前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の無電柱化）、街なみ環境整備事業（道路の美装化等）、伝統的建造物群基盤強化事業等を継続して実施し、街なかで開催される主要なイベントについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、黒石こみせまつりのみ規模を縮小して開催することができた。

認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果は、計画期間の後期に現れることを想定しており、計画2年目終了時点において目立った変化は見られないが、目標値の一つである「中心市街地内への新規出店数」は令和2年度の目標を達成しており、中心市街地の賑わい創出と交流人口増加を推進するための下地が作られつつある。

しかし、新型コロナウイルス感染症の収束は予断を許さない状況であり、中心市街地活性化事業の進捗に大きな影響を及ぼすことが想定されるが、今後も、地域と行政が一体となって引き続き目標達成を目指して、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、中心市街地活性化事業に着実に取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
人口	2,120人	2,066人	2,000人			
人口増減数	△56人	△54人	△66人			
自然増減数	△32人	△23人	△31人			
社会増減数	△24人	△31人	△35人			
転入者数	91人	110人	71人			

(2) 地価

(単位：円)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
中心市街地 商業地 (市ノ町)	20,200	20,100	20,000			
中心市街地 の近接商業 地 (山形町)	17,900	17,700	17,500			

## 2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和2年度の実績を見ると、3つの目標指標のうち「主要イベント入込数」と「歩行者通行量（平日・休日の計）」は基準値に達していない。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりイベント等が中止になったこと、自宅で過ごす方が増えたこと、また、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないためと捉えているが、観光客や来街者に黒石市を訪れていただくためには、イベント開催の目的や方向性を吟味し取り組み内容に反映するなどし、コロナ感染防止対策ガイドラインを守りながら、国、県、市の施策、補助事業を活用し官民連携で新たな賑わい創出の方法を検討していく必要がある。

もう一つの指標の「中心市街地内での新規出店数」は8件であり、基準値（年2件、5年間で10件）を超えていることから一定の評価はできる。しかし、中心市街地内には依然として空き店舗が多数あるため、黒石市の補助制度と黒石商工会議所の創業・起業支援制度等を相乗的に活用して、新たな事業者の新規出店機会の創出や出店意欲が向上されるよう、引き続き情報発信が必要である。

新規の整備事業としては、黒石市が旧大黒デパート解体や図書館整備に着手することで、今後街なかの印象が大きく好転していくものと考えるが、街なか全体を活性化させることを念頭において、各施設の整備計画については広く市民から意見を聴き、市民が何度も利用したくなる施設、建設後の維持管理コストに配慮した施設となることを望む。旧大黒デパート解体においては新たな施設の建設後のことも念頭に置き、近隣の商店街、観光施設への回遊性・利便性が高い街づくりが可能になるように駐車場や動線を考慮した実施事業となるよう要望する。

民間事業の「中心市街地複合宿泊施設」は令和2年6月1日に「こみせの宿 ホテル逢春」としてグランドオープンした。新型コロナウイルスの感染拡大が宿泊業にも深刻な影響を与えているなか、これまで市外の宿泊施設を利用していた東北地方のビジネス客や各種団体を中心とした利用があった。こみせ通り商店街が主催する「夜市」への参加（2回）、国のGoToトラベル事業、青森県の宿泊キャンペーンに参加し、ホテルや中心市街地に長い時間滞在していただくよう商店街や地域の事業者と連携し宿泊商品の開発に取り組み売上向上を目指せる方法についても確認できた。

今後も定期的・継続的に事業やイベントを行い、中心市街地に新たな人の流れが生まれるよう各種団体と連携していく計画のため、協議会として協力していく。

令和2年6月に黒石駅に隣接する商業施設が閉店した。一方、令和3年8月には駅前の空き地に2つの商業施設が建設予定である。地域住民の生活や観光客の受け入れの要所である黒石駅前を、今後どのように活性化していくかも大きな課題となった。

昨今、社会的な不安要素が尽きず、将来の展望を見通しづらい情勢となっているが、官民連携をさらに深め、事業者や地元住民等の意見を取り入れ、また、中心市街地活性化事業の結果を調査・分析し、将来的な人口動態の推移を考慮しながら対策を講じて目標が達成されるよう協議会としても尽力していきたい。

## Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ効果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
魅力と活力ある商業環境づくり	新規出店数 (件)	10件 (H25~29の合計値)	15件 (R1~R5の合計値)	11件 (R1~2の合計値)	B	①	①
街なかのにぎわい創出	主要イベント入込数	169,764人 (H29)	183,500人 (R5)	11,452人 (R2)	C	1	1
街なかのにぎわい創出	歩行者通行量(人/日) (平日・休日の計)	3,974人 (H29)	4,300人 (R5)	3,118人 (R2)	C	1	1

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）

②目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）

1 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

2 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

### 2. 目標達成見通しの理由

<新規出店数（件）>

令和2年度は、8件（中心商店街空き店舗対策事業の交付決定件数3件、中心市街地複合宿泊施設整備事業の成果として5件）の新規出店があり、基準値（2件/年）を大きく超えており、令和元年度から令和2年度までの合計値は11件となった。

令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、中心商店街複合宿泊施設の開業効果や、中心商店街空き店舗対策事業や起業・創業支援事業等の事業を継続することで、目標達成は可能と見込まれる。

<主要イベント入込数>

令和2年度は、11,452人の入込数となり、昨年度より143,110人減少、基準値より158,312人の減少となり、目標値を大きく下回った。

主な要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主要イベントのうち、「黒石よされ、黒石ねふた祭り、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ」が開催中止となったことによる。

令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘

客に努めることで、目標達成は可能と見込まれる。

#### <歩行者通行量（人/日）（平日・休日の計）>

令和2年度は、3,118人の歩行者通行量となり、昨年度より320人の減少、基準値より856人の減少となり、目標値を下回った。

主な要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自宅で過ごす方が増えたこと、また、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことが挙げられる。

令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、「中心商店街複合宿泊施設」、「市民サービス施設」、「市立図書館」、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の無電柱化）」、「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果の発現により、来街者の増加が期待できることから、目標達成は可能と見込まれる。

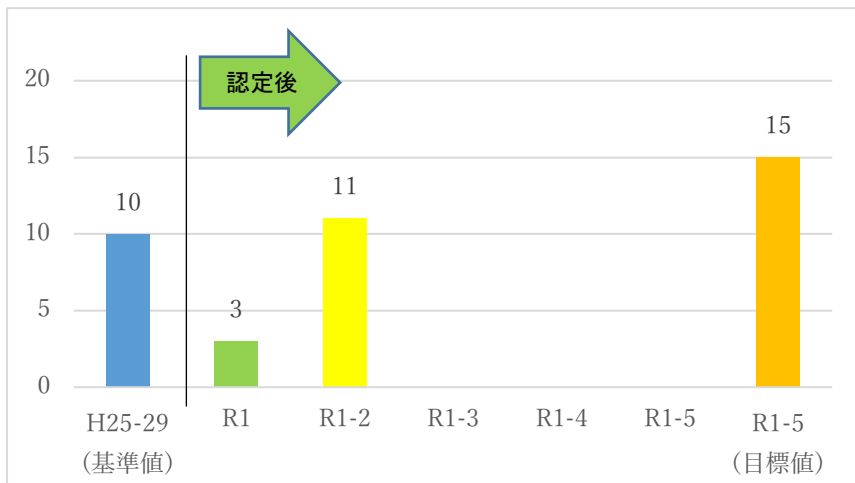
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しに変更なし

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<新規出店数（件）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P74～P75 参照

##### ●調査結果と分析



年	(件)
H25～H29 合計値	10 (基準年値)
R1	3
R1～2	11
R1～3	
R1～4	
R1～5	
R1～R5 合計値	15 (目標値)

※調査方法：黒石市中心商店街空き店舗対策事業補助金の交付決定件数

中心市街地複合宿泊施設整備事業

新たな活性化事業等による効果

※調査月：令和3年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：中心市街地内での新規出店

##### <分析内容>

新規出店数（件）の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり実施し、令和元年度実績を8件上回る結果となった。

中心商店街空き店舗対策事業では、令和元年度実績と同様に3件の新規出店となったが、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続した成果が現れたものと考えている。

また、民間事業である中心市街地複合宿泊施設整備事業の完了により新規出店が1件となったほか、同事業の相乗効果として新規出店が4件あったが、同事業の実施主体が当該施設の隣接地に店舗を新設した結果であり、民間事業者の大きな活力を得て、また創業・起業支援事業及び弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業の後方支援の成果が現れたものと考えており、期待された以上の効果があった。

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 中心商店街空き店舗対策事業（黒石市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用して出店する事業者等に対し、店舗改修費等の補助金を交付するほか、出店後の経営状況等のフォローアップを実施する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	新規出店3件の補助金交付決定があり、基本計画に記載の年2件の出店見込みを大幅に超えた。
事業の今後について	創業・起業支援事業と併せて継続実施することで新規出店を促し、空き店舗の解消、商店街のにぎわい創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5末）の効果として、計画期間中の総新規出店数を「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」を併せて、15件を見込んでいる。

②. 創業・起業支援事業（黒石市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	相談ルームの開設やセミナーの開催などにより、創業・起業希望者への支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	創業セミナーを5回開催し、相談ルームを24回開催したほか、県内の創業・起業支援情報を周知した。
事業の今後について	中心商店街空き店舗対策事業と併せて継続実施することで創業・起業者をフォローアップし、事業の安定と発展を下支えする。 計画終了時（R5末）の効果として、計画期間中の総新規出店数を「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」を併せて、15件を見込んでいる。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年3月に補助事業が完了し、同年4月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、同年5月にプレオープン、同年6月からの本格オープンとなった。 新規出店数として、中心市街地複合宿泊施設1件、相乗効果として4件の出店があった。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施

	<p>することで、来街者の増加と滞留時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。</p> <p>計画期間中の総新規出店数を「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」を併せて、15 件を見込んでいるほか、基準年から140 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。</p>
--	--

④. 弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業（不動産団体・金融機関・弘前圏域定住自立圏構成市町村・黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	弘前圏域で「空き家・空き地バンク」を運営することで中心市街地内においても空き家・空き地の利活用の促進を図り、活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度同様、黒石りんごまつりでの PR を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりイベントが中止になり未実施となったため、PR ポスターの作成や市広報へ掲載し、周知を行い、利用促進に努めた。
事業の今後について	<p>継続実施することで、遊休資産の活用機会を促し、居住者及び来街者の増加と新たな人の流れを生み出し、活性化につなげる。</p> <p>計画終了時（R5 末）の効果として、計画期間中の総新規出店数を「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」を併せて、15 件を見込んでいる。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 2 年度は、8 件（中心商店街空き店舗対策事業の交付決定件数 3 件、中心市街地複合宿泊施設整備事業の成果として 5 件）の新規出店があり、基準値（2 件/年）を大きく超えていることから、目標値の達成は可能と考えている。

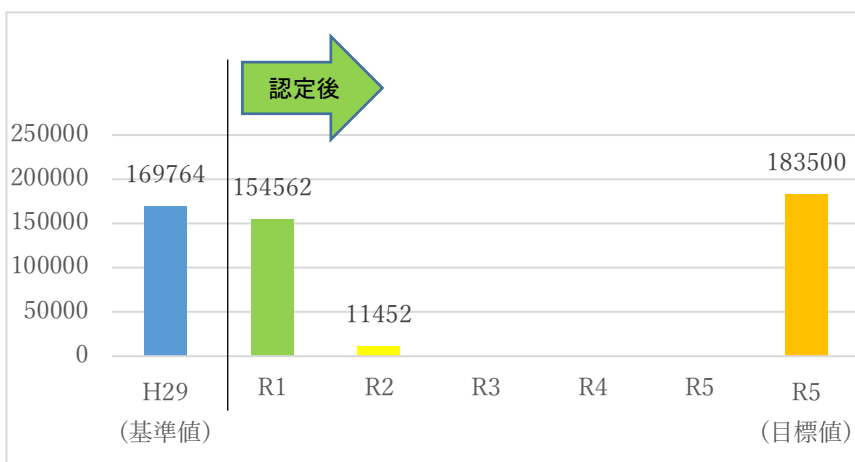
今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、空き店舗に新規出店を希望する小売業者等に対して、当該事業による補助制度の活用と周知を図るほか、起業・創業支援事業により起業相談や経営相談等を一体的に進め、目標達成に取り組む。



#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<主要イベント入込数> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P76～P79 参照

##### ●調査結果と分析



年	(人)
H29	169,764 (基準年値)
R1	154,562
R2	11,452
R3	
R4	
R5	183,500 (目標値)

※調査方法：中心市街地内での主要イベント来場者数を集計

※調査月：令和3年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：黒石よされ、黒石ねぷた祭り、黒石こみせまつり、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ

※黒石よされ、黒石ねぷた祭り、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止

※黒石こみせまつりは、開催規模を縮小して開催

##### <分析内容>

主要イベント入込数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、調査対象とした事業のうち「黒石こみせまつり」のみの開催となったため、令和元年度実績を143,110人下回る結果となった。

なお、「黒石こみせまつり」では、新型コロナウイルス感染症対策としてイートインコーナーを廃止するなど規模を縮小しての開催となり、当該イベント関係者の尽力と市民等の協力により、令和元年度より2,090人上回る入込数となったが、例年と異なる社会環境の影響が非常に大きいため、例外的な成果と考えている。

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ① 街なかイベント支援事業（黒石市）

事業実施期間	昭和61年度～【実施中】
事業概要	「黒石よされ、黒石ねぷた祭り、黒石こみせまつり、黒石りんごまつり」等の主催者に対し、その費用の一部を補助するほか、人的支援等を行い、イベント内容を充実させ、にぎわいの創出と交流人口の拡大に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）

事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、黒石こみせまつりのみの開催となった。感染拡大防止のため、規模を縮小して開催したが、来場者数は前年を上回り 11,452 人の入込数となった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、継続実施することで、各種イベントの円滑な運営を図る。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から 16,976 人の入込数の増加を見込んでいる。

②. 街なか情報発信事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	商店街マップや情報誌、SNS、観光アプリ等で情報を発信し、市民及び観光客の街なかへの関心を高める。また、インバウンド対応のため、無料 Wi-Fi 設置の促進と、英語圏、主にオーストラリアをターゲットとした誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業効果及び進捗状況	国際交流員による日英表記での投稿、また外国人目線での情報を SNS 等で情報発信している。 また、中町こみせ通りに公衆無線 LAN を整備し、グーグルマップ等への施設情報の英語及び日本語での登録などツールに合わせた情報発信に努めた。
事業の今後について	R3 年度、こみせ通りに Wi-Fi を一か所増設し、SNS 投稿に映える写真講座や SNS フォトコンテスト等を実施予定であり、誘客及び交流人口の増加が期待できる。 また、コロナ収束後に即座に反転攻勢が出来るよう体制固めをするとともに日英での情報発信を更に強化し、主にオーストラリアをターゲットとした誘客促進を図る。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から 8,488 人の入込数増加を見込んでいる。

③. 黒石よされブラッシュアップ事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	日本三大流し踊りの一つに数えられる黒石よされへの参加者増と知名度アップのため、浴衣の無料貸し出し・着付け、首都圏等で開催されるイベントへの参加、独自で県外イベントに参加する PR 団体に対し、経費の一部を補助することにより、観光誘客の推進と市内外の交流人口の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。

況	
事業の今後について	開催の可否が新型コロナウイルス感染症拡大の影響に左右されてしまうが、感染症対策を実施しながら、市外からの観光客誘客拡大を図り、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から 4,010 人の入込数の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 2 年度は、11,452 人の入込数となり、昨年度より 143,110 人減少、基準値より 158,312 人の減少となり、目標値を大きく下回った。

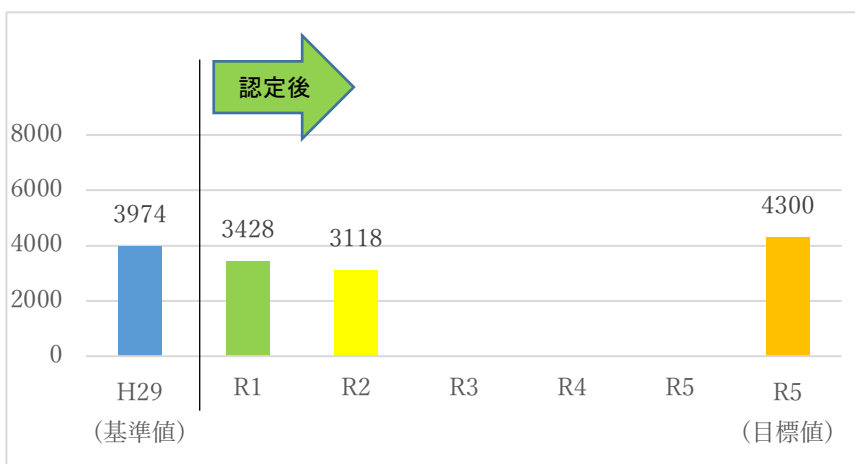
主な要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主要イベントのうち、「黒石よされ、黒石ねふた祭り、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ」が開催中止となったことによる。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努め、目標達成に取り組む。

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<歩行者通行量（平日・休日の計）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P80～P83 参照

##### ●調査結果と分析



年	(人)
H29	3,974 (基準年値)
R1	3,428
R2	3,118
R3	
R4	
R5	4,300 (目標値)

※調査方法：9月の平日及び休日（各1日）それぞれ、8時から17時45分まで目視で実測

※調査月：令和2年9月

※調査主体：黒石市、黒石商工会議所

※調査対象：中心市街地内の6調査地点（調査地点1：一番町【駅前】、調査地点2：上町、調査地点3：一番町【信金前】、調査地点4：横町、調査地点5：中町、調査地点6：市ノ町）における歩行者

※調査地点



(単位：人)

	平成 29 年度 (基準年)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
調査地点 1	1,252	1,080	844			
調査地点 2	438	292	268			
調査地点 3	442	540	512			
調査地点 4	416	372	342			
調査地点 5	864	650	760			
調査地点 6	562	494	392			
合計	3,974	3,428	3,118			

#### 〈分析内容〉

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり実施したが、令和元年度実績を 310 人下回る結果となった。

社会全体の問題として人口減少が着実に進んでいることが大きいですが、松の湯交流館管理運営事業及び回遊バス運行事業において、新型コロナウイルス感染症により事業実施回数や回遊バス乗車数が大幅に減少したため、市民等がまちなかを訪れる機会も減少したことが挙げられる。

また、指標に掲げる歩行者通行量増加分を収容する市立図書館整備事業及び市民サービス施設整備事業の拠点施設整備は、令和 4 年度以降に完了するため現時点では、その効果を見込めないことが挙げられる。

なお、調査地点 6 の「中町こみせ通り」の歩行者通行量が令和元年度実績より 110 人増加しているが、中町こみせ通りに近接する中心市街地複合宿泊施設整備が完了したほか、中町こみせ通り内の電線類地中化工事（前町野添線電線共同溝整備事業）及び道路美装化工事（街なみ環境整備事業）により「中町こみせ通り」を訪れる人が増え、期待された効果が少しずつ現れていると考えている。

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 市立図書館整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	黒石公民館駐車場に、新たに市立図書館を建設し、様々な世代の憩いの場として活用する。これまで当市になかった図書館を建設することで、図書館を利用する様々な世代の来街者を増やし、回遊を生み出し、にぎわいの創出に寄与するための事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） (令和 2 年度～令和 4 年度)
事業効果及び進捗状況	設計事業者を公募型プロポーザル方式により選定し、設計業務を令和 3 年 2 月に完了した。 建設工事については、令和 3 年 3 月に工事監理業務、電気設備工事及び機械設備工事の契約を締結し、本体建築工事は令和 3 年 4 月に契約締結した。

事業の今後について	令和3年度に新築工事を行い、令和4年度のオープンを目指す。 計画終了時（R5末）の効果として、基準年から85人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
-----------	--

②. 市民サービス施設整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	旧大黒デパート建物を解体し、市役所窓口業務等を含む市民サービス関連機能や交流拠点機能などを含む複合施設、広場を整備し、中心市街地の新たな人の流れを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） （令和2年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年5月に用地買収、同年9月に旧大黒デパート解体工事及び工損調査業務の契約締結、同年10月に工事監理業務の契約を締結した。
事業の今後について	令和3年度中に旧大黒デパートの解体工事を完了し、併せて公募型プロポーザル方式による設計業務を実施する予定。 また令和4年度から市民サービス施設新築工事に着手し、令和5年度のオープンを目指す。 計画終了時（R5末）の効果として、基準年から156人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（再掲）（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年3月に補助事業が完了し、同年4月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、同年5月にプレオープン、同年6月からの本格オープンとなった。 新規出店数として、中心市街地複合宿泊施設1件、相乗効果として4件の出店があった。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞在時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。 計画終了時（R5末）の効果として、相乗効果としての新規出店数1件/年のほか、基準年から140人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

④. 前町野添線電線共同溝整備事業（黒石市、電線管理者）

事業実施期間	平成 23 年度～令和 2 年度【事業完了】
事業概要	本路線は、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている地区内にあり、伝統的な「こみせ」の保存・修景整備とともに、こみせ通りとしての一体的な景観の向上を図る必要のある重要な路線である。当事業は、縦横に張りめぐらされた電線類を地中化することにより、こみせ通りの観光資源としての価値を高めることで、観光客を増やし、にぎわいを創出させるため必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業） （令和元年度～令和 2 年度）
事業効果及び進捗状況	電線管理者による工事の完了後、舗装補修工事を実施した。
事業の今後について	当路線において継続的に無電柱化の整備を行う。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」を併せて、130 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑤. 街なみ環境整備事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	「こみせ」などの伝統的な景観の保全・形成並びに、街なかを回遊できる歩行者ネットワーク構築にあたり、道路の美装化、景観の復元を行うなど、歴史的風致の維持・向上を図る整備が必要である。また、ユニバーサルデザインも取り入れ、魅力ある歩行者空間の確保を図るものである。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） （令和 2 年度～令和 5 年度）
事業効果及び進捗状況	中町こみせ通り道路美装化工事について令和 2 年 8 月に契約締結し、令和 3 年 3 月に竣工した。
事業の今後について	令和 3 年度以降は、外観修景助成を予定し、環境整備（快適な歩行者空間の確保、生活環境の向上、回遊性の向上）を進め、賑わいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」を併せて、130 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑥. 松の湯交流館管理運営事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	重要伝統的建造物群保存地区に存在する松の湯交流館をコミュニティ及び観光・まち歩きの拠点として活用することで、中心市街地の賑わいの創出と交流人口の増加を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）

支援期間	(令和元年度～令和5年度)
事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業が年間72回の実施となり、延べ1,480人の参加となった。 感染対策を講じながらの多種多様な自主事業を展開した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら実施することで、観光の拠点、交流の拠点として最新の情報をわかりやすく発信し、多種多様な事業を展開することにより、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時(R5末)の効果として、基準年から「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」を併せて、130人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑦. 回遊バス運行事業(黒石市)

事業実施期間	平成10年度～【実施中】
事業概要	回遊バスを継続して運行し、中心市街地への効率的なバス路線の検討・見直しを図る。また、バス停や待合所の多言語化のほか、店舗の前へバス停を設置するなどの取り組みを行い、中心市街地の商業環境の向上、街なか観光の振興、来街者の利便性の向上、街なか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、乗車人数は大幅に減少している。令和元年度に策定した黒石市地域公共交通網形成計画に基づく再編実施の方向性について、庁内で検討した。
事業の今後について	継続実施することで、中心市街地を訪れるための交通環境の維持・向上を図るほか、乗客の利用環境の改善に努め、活性化につなげる。 効果として計画終了時(R5末)には、44,000人の乗車となることを見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度は、3,118人の歩行者通行量となり、昨年度より320人の減少、基準値より856人の減少となり、目標値を下回った。

主な要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自宅で過ごす方が増えたこと、また、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことが挙げられる。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、「中心商店街複合宿泊施設」、「市民サービス施設」、「市立図書館」、「前町野添線電線共同溝整備事業(電線類の無電柱化)」、「街なみ環境整備事業(道路の美装化等)」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果の発現、及び街なかの生活空間の価値を高める取り組みを継続し、目標達成に取り組む。